

令和7年度 第2回岡崎市図書館協議会議事録

1 日時

令和8年2月26日(木) 午後2時開始、午後3時30分終了

2 場所

岡崎市図書館交流プラザ 会議室 301

3 出席者

(1) 出席委員（8名）

山脇正成委員、山本伸委員、平岩ふみよ委員、鹿嶋浩委員
天野高広委員、湊百合子委員、浦部幹資委員、杉原毅委員

(2) 欠席委員（2名）

江良良子委員、柿田憲広委員

(3) 説明のため出席した事務局職員

谷端中央図書館長、丸本副館長、本多総務係長、小野資料提供サービス係長
柴田主査、町谷主査

4 傍聴者

なし

5 次第

1 社会文化部長あいさつ

谷端中央図書館長あいさつ（社会文化部長は公務のため欠席）

2 会長あいさつ

山脇会長あいさつ

3 議事

(1) 令和7年度事業 経過報告

(2) 生涯学習推進計画の見直し（図書館別掲部分） について

4 報告事項

5 その他

6 議事要旨

(1) 令和7年度事業 経過報告

事務局から説明

(会長)

令和7年度事業経過報告について、質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

書店との連携催事の際には本の即売会などは行うのか。

(事務局)

お招きした作家の本や関連する本など、講演会の内容にあった資料を集めて、即売会を行っている。作家講演会の場合はサイン会もあわせて行っている。

(委員)

図書館でたくさん絵本を借りてほしいと思うが、現在はECサイトで購入するかたが多く、地域の書店経営が非常に難しい状況であることを耳にしている。市内に書店や本が買えるところがいくつあるか把握しているか。

(事務局)

把握できていない。

今年度開催した催事でサイン会に大変多くのかたが参加を希望されたことがあり、一部のかたには後日市内の書店で受け取ってもらうよう調整を図った。今までその書店を知らなかったかたに知っていただくいい機会になったと思うので、書店に行くきっかけになると良いと感じた。

(委員)

市民病院の入院患者などに向けての貸出などがあると喜ばれるように思う。どうだろうか。

(事務局)

調整が必要かもしれないが、有料のりぶらっこ便を活用できる可能性があると考えている。また、市民病院の談話室などで活用できるように、除籍資料の譲渡を市民病院へは毎年働きかけている。

(委員)

病院に出向いて貸出するということはできないのか。

(事務局)

アウトリーチサービスを検討する際には一つの意見として参考とさせていただく。

(2) 生涯学習推進計画の見直しについて

事務局から説明

(会長)

生涯学習推進計画の見直しについて、質問等あればご発言いただきたい。

(委員)

市民ライフステージに応じた学習支援ということで、乳幼児期および学童期の学習支援の

必要性を強く感じている。

小中学校ではGIGAスクール構想により子どもたちが一人1台タブレットを持って学習するようになったことや、セット貸出の配送もなくなったこともあり、紙の本に触れる機会が減ってきている。学校図書館指導員も令和8年度から廃止となり、図書を取り巻く環境が大きく変化していることを非常に危惧している。令和7年度事業実施報告のなかで出前授業を小学校で実施したとのことだが、セット貸出が廃止されたこともあり、子どもたちが本に触れる機会がかなり減るなかで、どのようにすれば子どもたちに図書館の本を使ってもらえるのか心配で、強化してほしいと思う。

また、授業支援で借りる本は、基本的に授業での調べ学習に使う資料が中心である。子どもたちが自発的に読みたいと思っている本とは異なることもあるようにも思う。読書といっても調べ学習なのか読みたいものを読むのか、読書の目的によって必要な資料や支援は異なるため、「読書の入口」をつくれるように、計画案にあるような年齢や発達段階に合わせた乳幼児期・学童期の学習支援を具体的に進めていただきたい、というのが学校現場での意見である。

(事務局)

子どもたちが本に触れる機会が減っている、というのは個人としても感じるところではある。学校によっては、授業支援というサービスを、読書週間に合わせて読み物をほしい、授業で扱っている内容に関連する読み物(物語であれば同じ作家の他の作品など)を貸し出してほしい、という依頼をいただくこともある。我々も、授業をきっかけに読書活動を広げることに尽力されている先生が多くいるということはこの1年を通じて強く感じた。

また、今年度初めて行った出前授業では、ブックトークを行った。昔話を扱う授業で、先生自身が選ぶと広がりを持たないで昔話のいろいろな楽しみ方を紹介してほしい、という依頼であった。そのため、絵本だけでなく、ストーリーテリングやパネルシアターなどを活用するなど、また、昔話をもとにお話を創作するということだったので、十二支に関する昔話から創作して作られた本を紹介するなどした。子どもたちの読書活動が広がるよう、こちらもいろいろな方法での働きかけを考えていきたい。

(委員)

非常に厳しい状況である、と感じさせられた。この状況では子どもたちの不読率が高くなるのも仕方ないように思える。

学校図書館に対する公共図書館の支援というのは側面的なものであり、まずは学校のなかで読書環境を整備して、子どもたちの読書環境を充実させていく、という基本スタンスが必要である。学校の数も多くあるため、公共図書館が1校あたりに対してできることは限られている。公立図書館の司書も学校教育に対してきちんと理解しているわけではないので、やはり学校で学校図書館を充実させていくことが必要と思うので、教育委員会にその整備を進めてもらう必要がある。昔と比較し、文部科学省も学校図書館に対して人の配置や予算を投じるなど、かなりの予算を投入しているのにもかかわらず、学校現場になぜ反映されないのか、と疑問に思っている。

(事務局)

岡崎市については、いわゆる児童館と呼ばれるようなものがないかわりに各学区に「子どもの家」があり、造形図書室やレクリエーションルーム等が子どもの居場所として機能している。そういった「子どもの家」にもリサイクル本等を活用してもらい、多少なりとも子どもと本が触れ合う機会となっている例もある。

学校の規模や地域差にもよるが、セット貸出が廃止されたことの影響が大きかった学校が少なからずある、というのは認識している。学校への出前授業といったソフト事業については今年度始めたところであり、各学校や地域の実情を伺いながら少しずつ良い方向へ取り組んでいきたいと考えているところである。

(会長)

推進計画改訂版の 21 ページの「④図書館に期待すること」であるが、「利用者同士が交流できる、本を活用したイベント」への期待が低い、という分析であるが、「一人で静かに読む場所」として考えている利用者も多いように思う。アンケート結果で低かった数値を上げるということよりも、イベントを実施したならば、リピーターの数や、満足度といった具体的な成果や指標の数値を向上させるほうがより適切ではないか。本への関わり方は多様であり、利用者同士の交流というのはその一つにすぎないと思う。

(事務局)

図書館に関するこのアンケートについては、昨年（令和 6 年度）の第 2 回委員会で、各委員の皆様から様々なご意見をいただいた。ご指摘のあった「特に期待すること」に関しても、多くのご意見が寄せられている。

アンケート結果の取りまとめでは、図書館に関する回答を集計した。18 ページは図書館の利用状況については 1,077 名から回答があり、「図書館を利用している」と答えたかたは 655 名で、全体の約 6 割強のかたから「図書館を利用している」と回答いただいた。また、こちらの手持ちの資料によると、年代別では、60 代以降のかたの利用率が低く、50 代以下のかたは非常に多く利用いただいているという傾向がみられた。

図書館を使っている人のニーズはそれぞれあるかと思うし、潜在的利用者と呼び込むために図書館が何を提供すべきかという課題を踏まえ、取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

回答者全体で市民の 6 割が図書館を利用しているのは高い利用率といえるだろう。60 歳以上の利用が少ない点は驚きである。先ほど見てきたがそういった感じはしなかった。公共図書館は 60 歳以上の高齢者の利用が多くて中高生の利用が少ないというのが一般的な傾向かと思う。

回答者の在住している場所も回答結果に影響を与えていると思うが、地域別の集計などはあるだろうか。

(事務局)

支所圏域別（中学校区単位）で集計している。中央図書館は市街地に限らず各地域から満遍なく利用があるという結果が出た。

高齢者の利用が多く感じた、という指摘については、利用頻度に個人間で大きな差があることも影響を与えているのではないかと、思っている。年代別分析では、50 代以下の利用率

は約 70%弱、60 代以上は約 53%という結果であったが、実態との乖離があるように感じた。

(会長)

高校生ボランティアによる読み聞かせなどを行うといったことはないか。

(事務局)

司書体験の一環で中学生が読み聞かせを行うことはあるが、高校生は今のところは行っていない。高校生のボランティアということであれば、図書缶(ティーンズ向け図書館情報紙)の編集に関わってもらっている。また、以前は南部市民センター図書室で短大生のボランティアサークルによる読み聞かせを定期開催していることもあった。

(会長)

以前、地域の図書館から高校生ボランティアの読み聞かせを行ってほしいという依頼を受けたことがある。高校生が意欲的に参加する光景は非常に印象も良く、またキャリア教育にもつながる面もあるなど、図書館に様々な可能性を感じた。

(事務局)

そういったことが実現可能であれば協力してやっていきたい。

(委員)

学校図書館の運営に関わる人材を自前で育成する必要性は感じているが、職員の数が十分にいないことや育てることが非常に難しい。出前授業の依頼以外にも学校図書館の運営についても相談などを受けてもらえると非常にありがたく思う。

(事務局)

以前、学校から除架の指導や読み聞かせに適した本の研修依頼を受け、当館の司書が学校へ伺ったことがあった。学校図書室の実務に関する困りごとがあれば可能な範囲でサポートしたいと考えているので相談してほしい。

4 報告事項について

事務局から説明

(会長)

報告事項について、質問等あればご発言いただきたい。

※特になし

(会長)

全体を通じて何かあれば発言いただきたい。

(委員)

人気のある本は、借りたいと思っても非常に予約が多くて借りられないことが多い。利用者の中にも該当するタイトルを持っている人も多くいると思うので、寄贈を促進する仕組みがあると良いかと思う。

また、DVD資料についてであるが、利用案内に『破損した場合は実費のほか著作権等の補償金も請求する』と書かれていて、どのくらい高額になるのか大変不安を覚えた。

(事務局)

寄贈の呼びかけについては良いアイデアがあれば取り組んでいきたい。

上映権付きのものの場合だと1本あたり1万6千円～2万円程度になることが多い。破損された場合などに弁償を求める際は内部で協議して、慎重に対応をしている。

(委員)

極端に高額な請求にはならないと分かり、安心した。

(委員)

相互貸借で取り寄せた資料の貸出と返却を本館以外でも可能にしてほしい、ということも前回の協議会で提言させていただいたがその後検討などは進んでいるか。

(事務局)

他館から預かっている資料であり、より慎重に扱う必要があると考えている。現時点では検討という段階には至っていないが、サービスを見直す際には参考意見とさせていただく。

(委員)

ホームページによると、発行から10年以上経過した資料は寄贈を受付けていないとあるが、シリーズ物の欠けを補うようなものであっても受け付けを行わないのか。

(事務局)

あくまで目安であるため、扱いをこちらに一任させていただけるのであれば受け付けている。例示いただいたようなケースの場合は受け入れを検討する可能性が高い。

(委員)

寄贈を受け付けていることの周知も併せて行ってもらえると良いかと思う。

(委員)

予約が多数ついている本は複本を多数購入しているかと思うが、一定の期間を過ぎて需要が落ちた後の扱いはどのようにしているのか。

資料2-3の4ページにある問4(居住年数)の回答結果を見ると、回答者のうち54.7%が「30年以上岡崎市に住んでいる」と回答している。しかし、過半数を超えているわりに、13ページにある問20(図書館サービスの利用状況)では各項目で「知らない」と答えたかたが非常に多いように感じる。市民への情報発信や周知が今後事業を実施していくにあたり大事なことになると思う。

(事務局)

予約が多数ついている本は多くのかたの手に渡るため、傷んだ状態となることが多い。保存に適さない状態になったものは廃棄し、比較的きれいなものについては開架から自動化書庫へ所蔵場所を替えるなどしている。

また、図書館サービスの認知度が低いことは今回の調査で把握できた。現在は図書館を利用していなくても、図書館が実施しているサービスとマッチするニーズを持っている層に図書館サービスに関する情報が届けば、利用促進につながると思う。

(委員)

ショッピングモールなど人が集まる場所でも図書館のPRを行い、より多くの人目に触れる機会を増やすことも有効かと思う。

(委員)

相互貸借資料が本館以外で受け渡しができない最大のネックはどういったことなのか。

(事務局)

本館とその他の受取館の間で実施している物流便の実施回数が限られていることが最も大きな支障と考えている。受取館によっては週に1回しか便がなく、利用者に貸出せる期間が非常に短くなってしまいう可能性がある。

(委員)

布絵本製作ボランティアとして10年ほど活動を続けており、何冊か寄贈した。夏に開催される図書館まつりでは、子ども図書室の片隅にテーブルを出して、ファスナーやスナップボタンがついているなど、仕掛けのある布絵本を展示している。子どもたちは恥ずかしそうに手に取るが、様々な仕掛けに触れて遊ぶうちにとっても良い表情になり、保護者もその様子を見て喜んでくれている。布絵本は、普通の資料と管理が異なっており、子どもたちがそのまますぐ手に取れるわけではなく、カウンターで声をかける必要があるので、利用者に布絵本を気軽に手に取ってもらえる機会が増えるとよい。

図書館リサイクル本バザーにも関わっているが、来場者から図書館への資料の寄贈について、問い合わせを受けることが多いので、周知をさらに行う必要があるように感じる。

シネマ・ド・りぶらでは、ここ数年で来場者に変化がみられ、リピーターばかりでなく新規のかたの来場も多くなっている。地道に周知をしてきたことでイベント自体がよく知られてきたこともあると思うが、参加者がイベントに期待を抱いてくれているという実感があり、今後も意欲的に活動を続けていきたいという励みにもなる。

(会長)

それではこれで議事及び報告事項は終了とする。